



「プロジェクト研究Ⅱ」研究成果発表会 令和2年10月10日

## 「さけが大きくなるまで」を起点に ～教科横断的学習を考える～

北海道教育大学教授(釧路校)  
佐野比呂己

2

分野を跨いでグループを編成し、グループごとに構想、計画を立て(課題発見・計画立案能力)、プロジェクト・テーマに応じて、調査・研究を行い(計画遂行能力)、異なる視点や立場からの多面的・多角的な観点を基に、分野横断的なディスカッションを重ねながら(コラボレーション能力)、学びを深め、批判的思考力、問題解決能力をつけていく。研究の成果は、期末に研究発表会を行い、プレゼンテーション能力を試す。また、プロジェクト研究は、プレゼンテーションでは終わらず、現実に役立つ成果物を作り出すところまで求められる。

## プロジェクト研究IID

- 釧路校新専攻(地域学校教育実践専攻)の目玉科目
- 文部科学省も注目
- 教科横断型、カリキュラムマネジメント、探究、主体的・対話的で深い学び
- プロジェクト研究I

## 理想と現実

- 教育課程  
不安定なものや安定しているもの  
教科外と教科
- 国語科からの発展 比較的容易

## 釧路校専攻再編

- 委員会代表者  
当初は専門性の高さを持った上での汎用性を構想  
文部科学省との折衝の中で変更  
汎用性重視に

## どうせやるならいいものを

釧路校2年の力の結晶  
アピール

1. HPにページを
2. 学会での発表  
教科書会社、国語教育実践家

## 概要

教育出版国語科教科書(小学校2年)所収の教材に「さけが大きくなるまで」がある。この教材は昭和46年(1971)から掲載されており、実に50年にわたって、その掲載が続く。この教材を起点に「さけ」についての教科横断的学習の可能性をさぐってみたい。

## 実施時期・方法

前期、毎週水曜5コマ目に行い、後期に不足分の講義を行う。(ZOOM)

まずは「さけが大きくなるまで」の教材文を読み、教材そのものの把握から始まる。この教材を起点に「さけ」を題材として、発展的、教科横断的学習の具体的な展開を構想する

- 6月17日(水)【つかむ】  
「さけが大きくなるまで」をよむ

- 6月24日(水)【広げる】ZOOM  
「さけが大きくなるまで」研究資料をよむ  
助言)白木裕(教育出版編集局)  
大月さゆり(附属釧路小副校長)
- 7月1日(水)【調べる1】各自作業  
図書、論文、辞典などで「鮭」、「鮭」に関連することを調べる
- 7月8日(水)【調べる2】発表1
- 7月15日(水)【調べる3】発表2
- 7月22日(水)【つなげる1】202講義室  
題材、自分自身の調査、他者の調査をつなげる  
コラボする相手を見つける。

- 7月29日(水)【つなげる2】発表準備
- 8月5日(水)【つなげる3】構想発表  
全体からの俯瞰  
指導)市村政樹(標津サーモン科学館館長)
- 10月4日(日)【みる】  
標津町サーモン科学館、忠別川鮭遡上見学
- 8月~10月【つくる】  
発表の準備
- 10月10日(土)【とう】  
学会で発表する(釧路国語教育学会)



## 「さけが大きくなるまで」音読

- 13:30-14:40 趣旨説明・学生発表
- 14:50-15:50 学生発表を受けて  
指定討論者、フロアから
- 16:00-17:00 討論を受けて  
学生、指定討論者、佐野

## 学生発表

- 国語科授業を考える
- さけと地域
- 鮭とアイヌ文化の関わり
- さけと環境
- さけ料理

## 指定討論者から

- 教育関係者の立場から  
玉井康之(北海道教育大学副学長)
- 教科書編集者の立場から  
白木裕(教育出版編集局)
- サケ専門家の立場から  
市村政樹(標津サーモン科学館館長)
- アイヌ民話研究者の立場から  
戸川貴之(帯広北高等学校教諭)

## 3つのポイント

- 国語科教材を起点とした教科横断的学習
- 地域を生かす 家庭を生かす
- 「さけ」という題材